

競技注意事項（案）

1. 競技規則について

本大会は 2022 年度日本陸上競技連盟競技規則、並びに本大会申し合わせ事項に従って実施する。

2. 招集について

- (1) 第一次招集は、招集所にて番組編成にある本人の組、レーンを確認し、ナンバーに○をつけること。その際、競技使用予定のシューズを持参すること。ただし、並ぶ際には一定の距離を保つこと。
- (2) リレー競技の第一次招集は、出走者 4 名全員が受けること。その際に、アスリートピブス、商標、同一のデザインのユニフォームであるかを確認する。
- (3) リレーオーダー用紙は、招集完了の 60 分前までに受付(TIC)まで提出すること。リレーオーダー用紙を提出しなかった場合、そのチームは欠場とみなす。(「3. 欠場について」参照)
- (4) リレーオーダー用紙提出後の選手変更は、本大会の医務員の判断がない限り認められない。この規則に従わなければチームは失格となる。
- (5) リレーチームの編成は、必ず当該リレーチームでエントリーしている者が 2 名以上含まれていなければならない。
- (6) 同一時間に 2 種目以上出場する競技者、および競技中のため他の種目の第一次招集を受けられない競技者は、第一次招集完了時刻までに重複出場届を受付(TIC)に提出すること。
- (7) 重複出場届を提出した場合も、必ず本人または代理人が第一次招集を受けなければならない。その際、重複出場届の控えを持参すること。
- (8) 重複出場届を提出した代理人は第二次招集に参加し、出発係にその旨を報告し本人が来るまで責任を持つこと。
- (9) 招集は、招集所および競技実施場所にて下記の通り行う。

種 目	第一次招集		第二次招集
	招集開始時刻	招集完了時刻	招集完了時刻
トラック競技	競技開始 30 分前	競技開始 20 分前	競技開始 10 分前
跳躍競技(棒高跳以外)	競技開始 60 分前	競技開始 50 分前	競技開始 30 分前
投 擲 競 技	競技開始 50 分前	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前
棒 高 跳	競技開始 90 分前	競技開始 80 分前	競技開始 60 分前

- (9) リレーオーダー用紙・重複出場届・当日欠場届・混成競技途中棄権届は受付(TIC)にて配布する。

3. 欠場について

- (1) 事前に欠場者が判明している場合は、8 月 3 日(水)10 時までに事前欠場者届を関西学連までメールにて提出すること。
- (2) 当日欠場は原則として認めない。やむを得ない場合に限り、当該種目の競技当日に当日欠場届を受付(TIC)に提出して承認を得ることで欠場が認められる場合がある。なお、当日欠場届には、本人のサインを記入すること。
- (3) リレー競技の当日欠場についても上記の手続きを満たし、招集完了の 60 分前（リレーオーダー用紙提出締切時刻）までに当日欠場届を提出すること。
- (4) 混成競技において途中棄権する場合、必ず混成競技係に申告の上、混成競技途中棄権届を早急に受付(TIC)に提出すること。

4. 競技者の服装について

- (1) 同一大学は、事前に学連に提出した同一のデザインのユニフォームを着用すること。これはリレー競技に限らず、すべての種目について適用する。提出したものと異なる形状のユニフォーム（トップスとショーツなど）を使用する場合も、色・デザインを統一させること。ただし、ユニフォームの変更を行っている大学は、申請を行えば変更前と変更後の複数のデザインのユニフォームを認める場合がある。
- (2) アスリートビブスは 2022 年度登録のものを使用し、ユニフォームの胸部および背部に折り曲げたりせず 4 か所を止め、明瞭につけること。ただし、跳躍競技においては胸部または背部の一方だけでよい。
- (3) 全てのトラック競技の腰ナンバーカードは右腰に明瞭につけること。ただし、1500m 以上の種目は両腰につけること。腰ナンバーカードは招集所にて配布する。混成競技の各日最終種目の腰ナンバーカードは、現地招集時に現地に配布する。
- (4) 本大会は TR5.2 ルールを適用し、規格外のシューズ使用は全て禁止とする。

5. 競技用器具について

- (1) 使用器具は原則として競技場備え付けのものを使用すること。ただし個人所有の砲丸、円盤、やり使用を希望する場合は、競技開始の 90 分前から 60 分前に検査を受けて許可を受ければ、使用することができる。検査は南側用器具庫で行う。ただし、検査時間が開門以前となる場合には、正面玄関にて検査を行う。
- (2) 棒高跳用ポールは私物使用を認める。各自で持ち込んだものを使用すること。

6. トラック競技について

- (1) トラック種目は次のラウンドを行わない。
- (2) 計時は写真判定(0.01 秒)とする。ただし、装置に故障等のトラブルが生じた場合、手動計時(0.1 秒)とする。
- (3) 800m において、競技運営の都合上 1 組 9 名を超えて競技を行うことがある。その場合、9・8・7 レーンの順に 2 人ずつ選手が入る。
- (4) 救急搬送防止および選手の安全確保のため、関西学連役員が競技者の体調を見て、医師または医務員と協議のうえレースを中止させる場合がある。その場合、必ず指示に従うこと。

7. フィールド競技について

- (1) フィールド種目の試技は 3 回とする。
- (2) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

	種目	ピット	試技開始	
男子	走高跳	A	1m80	2m10 まで 5cm 刻み、以降 3cm 刻み
		B	1m55	
	棒高跳	A	4m40	5m00 まで 20cm 刻み、以降 10cm 刻み
		B	2m40	
女子	走高跳	A	1m55	1m70 まで 5cm 刻み、以降 3cm 刻み
		B	1m35	
	棒高跳	A	3m00	3m60 まで 20cm 刻み、以降 10cm 刻み
		B	1m40	

十種	走高跳	A	1m40	190cm まで 5cm 刻み、以降 3cm 刻み
	棒高跳	A	2m00	3m60 まで 20cm 刻み、以降 10cm 刻み
七種	走高跳	A	1m15	1m60 まで 5cm 刻み、以降 3cm 刻み

- (3) 走高跳・棒高跳の練習の高さは当日、選手と審判員の協議により設定する。また、悪天候などの不測の事態が発生した場合は、総務・審判長・関西学連の協議により設定の高さを変更し競技を行う場合がある。
- (4) 組の中で競技者が 1 人となった場合のバーの上げ方は、本人の希望により決める。
- (5) 三段跳の踏切板の位置は、男子は 1 組(A ピット)が 13m、2 組(B ピット)11m、女子は 1 組(A ピット)が 11m、2 組(B ピット)9m とする。
- (6) 走幅跳（混成競技含む）及び三段跳の踏切判定には、ビデオカメラを使用する。（粘土板は使用しない）
- (7) 棒高跳の公式練習を行う際はゴムバーを使用する。
- (8) 投擲種目の公式練習は 2 回までとする。ただし、ハンマー投は 1 回とする。
- (9) 現場の審判員が許可を与えた上でコーチ席にアドバイスを聞きに行くことができる。しかし、審判員の指示に従わない場合は選手・コーチに警告を与え、さらに続いた場合は審判長・総務・関西学連等で協議し対処する。(TR6.2)
- (10) 競技待機中（w-up を除く）は選手間の距離を保ち、私語は慎むこと。

8. 混成競技について

- (1) 別紙「十種競技申し合わせ事項」・「七種競技申し合わせ事項」に従うこと。競技時間の遅れなどは、アナウンスで連絡する。

9. 抗議の申し立てについて

- (1) 競技の結果または競技実施に関する抗議は、結果が正式に発表（電光掲示）されてから、30 分以内に、その競技者あるいはチームの監督が口頭で審判長に申し出なくてはならない。
- (2) 抗議受付は、正面エントランスに設ける受付(TIC)にて行う。

10. 悪天候の際の対応

- (1) 競技の実施が不可能となることが予想される場合には、会長・ヘッドコーチ・競技委員長・事務局長・幹事長と陸協等で方針を協議する。
- (2) 中止となった種目のエントリー料の返金は行わない。

11. その他

- (1) 事前欠場者の人数により、番組編成を変更する場合がある。
- (2) 競技場内へ立ち入る際、競技場保護のためヒール等の底の固い靴は一切禁止し、アップシューズもしくはスニーカーで入場すること。学生審判・補助員も同様とする。
- (3) 競技者は競技区域内にビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を持ち込めない。(TR6.3.2)
- (4) 注意事項及び学生競技者としてのマナーを逸脱した行為などが見受けられた場合、その学生の所属する大学の当該種目以降の競技を中止させ処罰を与える。
- (5) 大会期間中に疑問な点があれば、大会本部まで申し出ること。